

# ペット共生住宅のプロ育成

## 「犬と住まいる協会」設立

ペット共生住宅のプロを育成するため、不動産業者やエクステリア企業、ペット関連企業を会員とする「犬と住まいる協会」が発足した。ユニマツトグループのユニマツトリックが支援母体となり、理事長にペットマーケットコンサルタントの野中英樹社長が就任した。ペットと住まい産業の創造、拡大を図る。



各業界の専門家が理事やアドバイザーを務める（前列中央が野中理事長）

2日に開いた設立発表会で、野中理事長は「20年間で、人と犬が快適に暮らすための知識の向上が、ペットとの共生に不可欠な要素である」と述べ、LIXILなどの建設・資材メーカーのほか、インテリア・リフォーム会社、エクステリアガーデン会社など21社がすでに会員となっている。ペット可マンションの急速な普及などにより、市場は20年前の2倍以上の1兆5000億円規模に成長した。同協会は、今後も事業領域は拡大すると予測。協会活動を通じて、ペットとの新しい住まい方を提案する新商品・サービスの開発などを支援する。

具体的活動としては、戸建て、集合住宅、エクステリアガーデン、ペットサロンの4つの専門部会を設立。情報交換や各社の事例発表などを

行い、勉強会、セミナーなども活用してスキルアップを図る。来年度からは、理事会で特徴、デザインなどの優位性を総合的に審査し、同協会が推奨する住宅などに対して「犬すま推奨マーク」を与える。「長期的には、同マークを与えた住宅の価値が、中古になった時にも下がらなくしたい」（野中理事長）として、認知度向上に務める。住宅だけでなく、商品やサービスについても適用する。協会独自の認定資格試験「犬すまコーディネーター」も創設。動物愛護法などのペット概論や飼育管理など基本論を共通科目として、4部門それぞれに資格を付与する。今冬に開始する予定。

今後、初年度の会員数を100社、2年目は200社、3年目は500社を目指す。

## 木材利用の耐火建築を紹介

森の循環推進協議会 横浜でフォーラム

森の循環推進協議会「フォーラム」を開催した

「道志間伐活用4社協力会」から発展した。メインのパネルディスプレイを前に菅沼会長は「水源地の保全と木材利用法などを紹介し、参加した同協議会サポーターとも意見を交わした。」

稲川清士・J.R東日本

当部長は、自社で手掛けた大規模建築物の事例を発表。「耐火建築物に木材を利用した工法の国土交通省認定『1時間耐火』

これまでの取り組みを報告した。

徒

40歳を過ぎても現役のプロ野球投手だった工藤公康さんによると、不調もしくはスランプの原因は「内臓の疲れ」だそう。若くて筋肉質で立派な体をしていても、内臓が本来の動きをせず、胃腸や下痢や便秘などの症状を抱えている例は少なくないのではないかと話す。

胃腸をはじめ内臓が悲鳴を上げているのに、これに気づかないのは怠慢です。内臓の疲れが徐々に溜まってきて、もうこれ以上のムリは利かないといった年齢がちよつと40過ぎの頃、厄

が可能な鋼材を内蔵する「木質ハイブリッド集材材」を使用している」と話した。併せて「工法の標準化」「コストの低減化」など同工法普及に向けて課題も指摘した。

務

**駅前不動産屋**  
 出口地所 出口和生

**内臓の疲れ**

年の意味はそんなところにあるのかも知れません。食を抜きたそう、プチ断腸が持っている読んだこととありますが、確かにそんな気もするのです。また、各内臓がそれぞれ個別の意識を持っているらしく、自

一つの病気のカタガガ

分の内臓にも静かに感謝する時間を持ちたいと思うのです。やる気や体力のなさも、たが内臓の疲れから来ているのではないのでしょうか。野茂投手や工藤投手は、オフになると意図して



建築事務所には、レストラン併設。三春情報センター。三春情報センター（横浜市港南区、春木磨碑露社）は、レストランと建築事務所を組み合わせたサービスを開始した。横浜市栄区にイタリア

は